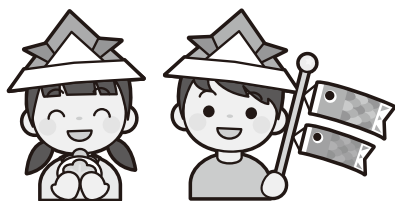


五月五日「こどもの日」。
子どもたちの誕生を祝い、健康と成長を国民全体で祈る日です。元々は「端午の節句」で、男の子の健康と立身出世を祈る日でしたが、戦後、こどもの日として制定され、男女関係なく、子どもたちの健やかな成長を祝う日として位置づけられました。奈良、平安の昔、中国の暦による五節句（七草の節供「桃の節供」菖蒲の節供（端午の節句）「七夕の節供（笹竹の節句）」「菊の節供」の風習が日本の上流階層に取り入れられ、それがやがて庶民の間にも広がり、江戸期にはほぼ全国に普及しました。



「節句」は元々「節供」で、季節の変わり目に、神にお供えをして五穀豊穡や無病息災を祈る風習のことで、どの節句もその季節の植物の名がついていました。
「鯉のぼり」については江戸時代、「端午の節句」に男の子が生まれたしるしとして幟を立てた武家をまね、和紙で作った鯉の幟を揚げたのが始まりです。鯉は立身出世のシンボルで、鯉が滝を登って龍になったという「登龍門」伝説（黄河上流に門が有り、そこを越えた鯉が龍になった）に由来します。
「五月人形」は、人形が人の厄を受けてくれるという身代わり信仰のひとつで、有名な武者を模したものを「武者人形」と呼び、勇ましい男子に育つようお願いが込められています。人形は一人一人の身代わりなので、長男に金太郎、

二男に牛若丸というように、一人に一つそれぞれの分を飾ります。（以下「弁慶」「鍾馗」「鎧」「兜」等 縁起を担いで飾られます。）
また、ちまきや柏餅など節句に食べる食物には地方色もあり、松本の近辺では、ヨモギを使った「草餅」や「朴葉巻」「若竹料理（煮物など）」を節句の祝いに食卓にのせる地域もあります。
全国に目を向ければ、「勝つ」の縁起担ぎで「鰯料理」、特産の大麦の粉を使った「麦団子」等々、無数の地方色豊かな食物がお祝いに供せられています。
近年では、鯉のぼりや兜をかたどったちらし寿司やケーキなど

端午の節句



令和7年5月1日現在
世帯数 : 841世帯
人口 : 1445人
男 : 677人
女 : 768人



も人気のあるお祝い食になってきています。このような風習は明治維新や終戦を経て、位置づけが変わっても根強く庶民の生活の中に残ってきました。今後どうなっていくのかはわかりませんが、風習や伝統というものは、その地域やその国のアイデンティティーの源泉のひとつでしょう。人々が自分のアイデンティティーを考えることがあれば、そのよすがになるかもしれない。また、日本人が世界の中で自分の位置づけを考える際にも思い起こすかも



しれません。節句に際して、そんなことにも思いをはせてみました。

令和7年度 第一地区町会役員 (敬称略)

	【町会長】	【町内公民館長】
本町1丁目	上條 誠二	内藤 英昭
本町2丁目	猿田 弘行	村山 孝幸
本町3丁目	太田 隆治	中原 啓
本町4丁目	甕 秀行	岩原 正勲
本町5丁目	正村 秀樹	縣 秀享
伊勢町1丁目	宮坂 賢吾	田中 博
伊勢町2丁目	糸井 健至	的場 和哉
伊勢町3丁目	桐原 崇光	深澤 健能
分銅町	高宮 深音	高宮 博子
新伊勢町	山越 晴彦	寺沢 厚子
神明町	山内 敦子	塩原 信一
国府町	安部 芳樹	(同左)
西五町	春日 孝介	(同左)
西長沢町	新井 富士子	(同左)
中条中	水野 範明	池原 義明
博労町	伊藤 峯一	伊藤 善立
中町1丁目	福田 陸	羽山 義輝
中町2丁目	二木 真弥	細谷 貴子
中町3丁目	佐々木 一郎	(同左)

第一地区の New Face

第一地区の地域づくりセンター長と公民館長が代わりました。新しく着任された長澤靖センター長(55)と降旗清人館長(65)に話を聞きました。

Q おふたりのご出身と簡単なプロフィールを教えてください。

【長澤】松本市内出身で、第一地区をはじめいろいろなところに住んだことがあります。市役所では、情報政策課が長かったです。本郷地区のセンターを経てここに着任しました。



長澤 靖 センター長

【降旗】私は本町5丁目の出身です。理学療法士をしていて、病院を定年退職したあとは、高齢者のサポートをする

NPQなどを経て公民館長になりました。高校を卒業してから、県外にいたことも多かったですが、25年前に松本に帰ってきました。



降旗 清人 館長

Q 第一地区の印象は？

【降旗】ちょうど松本駅前周辺が大きく変わった時期に松本にいなかったもので、浦島太郎のような気がしました。「すごいなあ」と。個人的には、昔の松本の方が、観光にはよかったのでは、と思っています。昭和レトロな感じや、どこからでも北アルプスの山々が見えたりして、自分の家からの景色も随分変わりました。

【長澤】第一地区はまさに「まち」ですね。繁華街。デパートや、名店街なんていう細い路地の商店街、アーケードなど、懐かしく思い出します。開発が進みましたが、中町は、街並みがそのままで、人々ののんびり歩くにはいいですね。

【降旗】懐かしいですね。ブ

ランクがあるから思い出しながら話しています。どこからでも山が見えるのが魅力の一つだったけど、岳都としてはただの「玄関口」という印象になってしまったような気がします。

【長澤】昔は何世帯くらいあったんですかね。とにかく、昔のまちの話がおもしろくて、ついいろいろな人と話して込んでしまう。文房具屋もたくさんあったけど、今はなくなってしまったなあ。

Q 第一地区の課題は？

【長澤】住んでいる人が少なくなってきたので、町会同士の連携を図り、持続可能な地域をつくるお手伝いをどうしていくかということだと思います。

【降旗】町会のあり方も難しいですね。町会に加入していない人も多く、そういう人たちへの情報提供の方法とか。また、防災の観点から考えるとどうすべきか、難しいところですね。

【長澤】町会役員の負担についても考える必要がある。「誰のための地域づくり」なのか、市民サービスという観点から見直してみる必要もあるのでは。

【降旗】今まさに子育てをし、

生活している人たちの意見を反映していけるような、町会づくり、町づくりができればいいと思います。

Q 最後に抱負をお聞かせください。

【長澤】地域の課題と一緒に考え、持続可能な地域をつくるお手伝いをしていきたいと思っています。

【降旗】「つなぐ」ことが仕事だと思っています。行政は素人ですが、医療関係には少し明るいので、そういうことで何かお役に立てればと思っています。

気さくにインタビューにお答えくださったおふたり。ありがとうございました。

また、3月末をもって退任(異動)された中村史子センター長、水野範明館長からも、メッセージをいただきました。

【中村】皆さまにとってもよくしていただきました。3年間お世話になりました。

【水野】5年間という長い間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

おふたりの今後益々のご活躍をお祈りしています。

電車通り

人は誰しも長生きしたい、というのが願ひではないでしょうか。しかし生命体である以上は寿命が有り、思い通りにならないのが世の中の常です。現在は医学が発達し、寿命は徐々に延びています。永遠の命は、世界中で研究されているものの、未知の分野であります。単細胞では永遠に生きると見られているものがある、と言われています。

現実の世界では、健康で長生きしたいという願望を実現していく為、健康診断で自分の健康に異常が無いかわかる、そして継続するのが重要。次に認知機能、運動機能、目、骨、内臓等、健康維持対策にサプリメントをとる努力をする訳です。サプリメントも多種多様で、自分に合うか、合わないか、選ぶのに四苦八苦しています。サプリメントは健康食品と言われますが、食品といっても取りすぎれば害が生ずる事もあり、飲み合わせは、薬剤師に相談したほうが良いと言われています。

サプリメントも人により合わない事も有り、十分注意して使う事が必要となります。